

県 総務文教
との連携を図り造成事業を復興に向けた造成事業

大吹地区宅地分譲地は、分譲区画8区画中7区画の申し込みがあり、苗代替宅地造成事業は、6区画造成工事が完了し、立退き世帯を含む町内津波被災世帯を対象に分譲し、分譲価格は不動産鑑定と津波被災を考慮した設定であるとの説明がありました。

また、駅東側の防潮堤と防災緑地の完了見込みや第一期工事に必要な盛り土の搬入先ならびに町事業との整合性は、27年度完了予定で進めており、町事業として20万㎡、県事業として80万㎡の盛り土が必要であり、県と調

整しながら進めたいとの説明を受けました。

当委員会として県との連携のもと、計画通り復興に向けた造成事業につなげるよう提言しました。



帰町促進対策のひとつ
JR利用運賃助成（広野駅）

ス 総務文教
ピード感を持って対応し、一日でも早い帰町に帰町促進を図るための取り組み

町内帰還者のJR利用運賃助成は、5月10日現在、通学定期券8人、回数乗車券3人、往復乗車券1人の計12人、助成額9万3535円との報告がありました。

町民バスの運行再開から3月末までの利用状況は帰還者の増加と復興支援バスとの連携により増加し、本年3月は、従来の約2倍に急増し、今後も利便性の向上に努めるとの説明を受けました。

町からは、町営住宅、生活環境改善事業交付金などを活用し帰町を進めるため補修を行う予定で、県営住宅での建て替えなど県と協議したい旨の説明がありました。

町からは、町営住宅の補修基準を明確に、さらに町・私有財産別に補償請求するなど公平にスピード感を持って対応し、一日でも早い帰町に繋がるよう提言しました。

委員会報告

状況を報告します。

総務文教常任委員会	平成25年5月15日 開催
産業厚生常任委員会	平成25年5月13日 開催
東日本大震災災害復興に関する特別委員会	平成25年5月20日 開催

委員会の活動



5月に行われた広野小学校遺跡発掘体験

産業厚生
3 年ぶりに収穫する広野町産米
平成25年産米の作付け

※ 広野町水田管理計画は、今年作付けされたすべての米について、全量全袋検査をして出荷すること。用水路の除染状況は、作付けする水田に係る用水路のすべてが終了していること。また、営農再開支援事業は、県営農再開支援事業要綱が定められ、6月実施予定であることなどの説明がありました。

これを受け各委員から次の質疑がありました。

①町水田管理計画の終期
②用水路等の除染後の検証
③今年作付けした農家としなかった農家との受益のバランスのあり方
などです。

当委員会としては、作付けする水稲が健全に育ち、3年ぶりに収穫する広野町産米を安心安全な米として出荷できるように最善かつ万全を期するよう求めました。

※ 【広野町水田管理計画】
25年産米について、放射性物質の吸収抑制対策や生産情報の把握・管理などを計画したもの

産業厚生
災 害公営住宅入居要件の周知を
災害公営住宅の建設

現在計画している災害公営住宅3DK10戸1棟は、区域内の公園予定地に変更し、貴重な奈良時代の遺跡を現地保存したいとのこと。

各委員からは、次のような質疑がありました。

埋蔵文化財の保存方法について、貴重な埋蔵文化財である遺跡保存方法を考慮すべきである。

今回建築する災害公営住宅に、入居できる人、できない人の要件を町民に容易に分かるよう周知すべきであべきであり、また、今回入居できない方に対する今後の対策等追加建築の有無や家賃に対する質疑がありました。

当委員会としては、早期完成に向け鋭意最善を尽くされるよう要請しました。

町からは遺跡の保存方法について、文化庁や県との協議のなかで進めることなどの説明を受けました。

当委員会としては、今後の発掘調査に期待し、町民の誇りとなる遺跡保存に努めるよう提言しました。

総務文教
町 民の誇りとなる遺跡保存を
広野町桜田IV遺跡の概要

奈良時代主要幹線道に置かれた早馬を乗り継ぐ駅家（うまや）関連施設跡の可能性が高く、今後も未調査エリアの発掘調査をより細かく調査するとの説明がありました。

各委員からは、常時公開し観光に結びつけるなど検討できないのか、などの提言がありました。



熱心に遺跡発掘の説明を聞く小学生